

「地域に誇りを持ち、生涯にわたって学び続ける生徒の育成」
～地域とともに育む 人とつながり 学びに向かおうとする力～

- 重点目標
- ①次世代を生きぬく学力の育成に向けた、主体的な学びを引き出す授業づくり
 - ②生徒が安全で安心できる居場所づくり
 - ③教職員が協力・協働のもと、働きやすくやりがいを感じる環境づくり

豊かな人間性

- ・体験学習や学校行事を通して、創造性、協働性の育成とともに、自己有用感の伸長を図る。
- ・命を大切に、他者との違いを認め合うことのできる心を培う。
- ・未来に向けて主体的に人生や社会を切り拓く人づくりの基盤としての道徳性を養う。

健康・体力

- ・学校教育全体で食育に取り組み、望ましい生活習慣の形成や食に関する自己管理能力を育成する。
- ・体力・運動能力の向上を図る態度、並びに心身の健康を保持増進する資質・能力を育成する。
- ・感染症予防のための能力・態度を育成する。

何ができるようになるか
○学校教育の基本

- ・自分の考えを書いたり発表したりできる。
- ・自分と異なる考えを聞いて受け入れられる。
- ・的確に物事をとらえ課題を解決できる。
- ・知識・技能、思考力・判断力・表現力・学びに向かう力・人間性

資質・能力の育成

何が身についたか
○評価を通して学習指導を改善

- ・学び合いを通じて、自分と異なる意見を受け入れて考えを広げるなど、主体的に学ぶこと。
- ・学習したことや体験したことを生かして、学びの質を高めること。

【生徒の実態】

素直で明朗快活
〈課題〉

- ・自分の考えを伝える力
- ・物事を適切に読み取る力
- ・自己有用感と規範意識
- ・他者との好ましい関係を構築する力

子どもの発達をどのように支援するか

- ・利他性、協働性、社会貢献など、人とのつながりによるウェルビーイングの向上を図る。(安心・安全な学校づくり)
- ・学校全体で「学び合い」「支え合い」ができる雰囲気づくりを進める。
- ・学校(教職員全体)と関係機関や地域・保護者との協働と連携を図る。

【目指す生徒像】

- ・自ら取り組む(自主)
- ・言動に責任を持つ(責任)
- ・自他を大切に(思いやり)

何を学ぶか(教育課程の編成)

- ・3年間を見通した授業づくりを進める。
- ・言語活動の充実により読解力や表現力の向上を図る。
- ・1人1台端末を効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びを推進する。
- ・「探究的な学びの創造プロジェクト事業」の成果を生かし、引き続き探究的な学びを実践する。

どのように学ぶか(教育課程の実施)

- ・全体計画・年間指導計画により「単元を通してつけたい力」を明確化する。
- ・教科の特質と教科間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程を編成する。
- ・「めあて」を明確にし、「学びあい」活動を進め、「振り返り」を確実に挙行授業を展開する。
- ・主体的・対話的で深い学びを実践する。

実施するために何が必要か(指導・支援体制の充実、家庭・地域との連携・協働)

- ・校内研修活動(毎学期に研究授業を実施、全員による研究協議)を推進する。
- ・教育課程上の工夫と新しい評価について保護者の理解を深める。
- ・保護者や地域との情報共有を進め、連携して教育にあたる。

安全・安心を守る

- ・いじめや不登校の未然防止に向けた取組の推進
- ・危機(防災)管理の徹底 不適切な指導の根絶
- ・相談しやすい環境づくり(教育相談活動等の充実)
- ・特別な支援や配慮が必要な生徒への対応

開かれた学校づくり

- ・学校ホームページの充実と定期的な更新
- ・学校運営協議会によるコミュニティ・スクール
- ・地域行事への参加、ボランティア活動の推進
- ・地域・保護者・校区内小学校との連携推進

パワーアッププランにおける次年度の方向性（学校評価より）

- ① 家庭及び地域連携、情報発信等の工夫、さらに生徒や保護者とのコミュニケーションを密にすることにより、「開かれた信頼される学校づくり」を進める。
- ② すべての教育を人権基盤で捉え、自他ともに大切にしたい安心できる居場所としての学校作りを推進する。そのため不登校対策を組織として行うとともに、生徒の主体的・自治的な活動の機会を確保し、自尊感情や自己有用感の向上を図り、将来に夢や希望を持てる生徒の育成をめざす。
- ③ 部活動の地域展開が進む中、部活動が学校教育に果たしてきた役割を再確認し、新たな学校づくりの機会と捉える。
- ④ 「HAL」の取組を継続するとともに小テストや単元テストの意義について再確認し、自ら学びに向かう力の向上を目指す。

重点目標に係る実施目標

I 次世代を生きぬく学力の育成に向けた、主体的な学びを引き出す授業づくり

- ※「授業が分かりやすくよく理解できる」と回答した生徒を82%以上にする。(R7:80%・R6:75%)
- ※「学校は楽しく分かる授業を行っている」と回答した保護者を80%以上にする。(R7:75%・R6:77%)
- ※「家庭でほとんど学習していない」と回答した生徒を18%以下にする。(R7:20%・R6:22%)

①ワクワクしながら学習に取り組む主体的・対話的で深い学びを進める。

- ・将来の予測困難な時代において求められる資質・能力を育成するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ・生徒が自ら課題を見つけ、自ら考え、判断し、多様な他者と協働しながら、よりよく問題を解決していく探究的な学びを行う。
- ・兵庫型学習システムにおいて習熟度別学習等、生徒の実態に対応した授業づくりを進める。
- ・小テストや単元テストにより学習の学び（つまずき）を確認し、学び直しをすることにより学力の定着を図る。
- ・「道徳教育拠点校育成支援事業」の取組を通して、日常的な聞くスキルや話すスキルを高め、対話を通して豊かにつながり、考える楽しさを創る道徳科の授業づくりを進める。
- ・授業力向上を目指した研究協議を行う。また、その方法についても工夫し組織的に進める。

②生徒が家庭学習等自主的に学習することができるよう、個に応じた工夫ある指導を進める。

- ・『学習の時間（HAL）』を設け、学習能力を高める取組を通して、生徒自身が学習方法を理解し、実践できるようにする。
- ・自ら学ぶ活動を通して、計画的な学習習慣を身につけ自己管理能力を育成する。
- ・一人ひとりの学習状況を見極め、やる気やつまずきを共有するなど学習支援を強化する。
- ・一人一台端末の効果的な活用等により、個別最適な学び（指導の個別化と学習の個性化）に取り組む。また学習相談の充実を図る。
- ・「ひょうごがんばりタイム」の継続実施とともに家庭学習の習慣化を進める。

③ICTの効果的利活用を進める。

- ・タブレット端末、電子黒板、書画カメラ、デジタル教材、学習データの積極的な利活用により、生徒一人ひとりのニーズや特性に応じた個別最適な学びを実現する授業づくりを進める。

④学校・家庭・地域の連携によるキャリア教育の充実を図る。

- ・校種間の円滑な接続を図り12年間を見通した効果的な指導を行うため、キャリア・パスポートやキャリアノートを活用した積極的な小中高連携を進める。
- ・地域に目を向け、自ら社会課題を見つけ、他者と協働して解決するアントレプレナーシップ教育に取り組むなど、探究的な学びの充実を図る。

2 生徒が安全で安心できる居場所づくり

※「学校へ行くのは楽しい」と回答した生徒を90%以上にする。(R7:88%・R6:83%)

※「将来の夢や目標を持っている」(全国学力調査)と回答した3年生を65%以上にする。

(R7:61%・全国平均68%)

※「学校は誰もが安心して登校できる居場所づくりを行っている」と回答した保護者を88%以上にする。(R7:86%・R6:75%)

※「学校は、人権感覚を磨き、いじめや差別のない集団作りを行っている」と回答した保護者を80%以上にする。(R7:78%・R6:78%)

※不登校(不登校傾向)生徒の出現率を5.7(25人)以下にする。(R7は6.0%)

※90日以上の不登校(不登校傾向)生徒の出現率を2.8%以下にする。(R7は3.1%)

①本校におけるすべての教育活動を人権基盤で捉え、生徒との対話を重視し、内面理解に努める。

- ・毎日の学校生活の中で、生徒の内面理解に基づくきめ細かな生徒指導を実践するため、毎月の「心のチェックシート」、各学期の面接週間等により、生徒の困り感に寄り添う。

②生徒の居場所づくりを進め、安心して登校できる学校づくりを進める。

- ・自己理解、他者理解を深める人権教育を推進する。
- ・校内サポートルームや教育相談活動の充実などにより、相談しやすい環境づくりを進める。
- ・「こどもが描く学校図書館づくり」支援事業の取組を通して、生徒の学習拠点や居場所として魅力あるものにするため、生徒の意見を反映しながら親しみのある図書館づくりを進める。

③生徒自身が「自分たちが学校を創っていく」という当事者意識を高め、生徒の力による学校づくりや学級づくりを推進する。

- ・生徒会活動や部活動は、生徒の自治的な活動という基本方針に基づき、主体的・自発的な活動となるようコミュニケーションを密にしながら実施する。
- ・すべての生徒が活躍できる場面を実現することにより、自尊感情や自己有用感の向上を図り、将来に夢や希望を持てる生徒の育成を目指す。
- ・部活動の地域展開が進む中、部活動が学校教育に果たしてきた役割を再確認し、新たな学校づくりの機会と捉える。

④豊かな人間性を育み社会的自立を目指した指導・支援により、いじめや不登校の未然防止、早期対応を組織的に取り組む。

- ・いじめアンケートや生活アンケートを定期的実施し、集約・集計に基づいた教育相談を行う。
- ・SNS等に対応した講演会(研修会)を全校生徒対象に実施する。
- ・校内サポートルームの支援体制や環境整備を図るとともに、教育支援センター等、関係期間との連携を強化する。

⑤校内委員会・係会の定期開催により、情報共有とともに指導・支援のあり方を検討し、生徒や保護者への継続的・計画的な対応を行う。

- ・校内の生徒指導に係る係会と生徒支援に係る係会については毎週1回、時間割調整により開催する。内容については、学年会等で同学年所属の教職員での情報共有を図る。特に、重要案件については、毎月の職員会議で情報交換し、共通理解を図る。
- ・校内の特別支援に係る委員会・係会は、特別支援コーディネーターを中心に定期的に開催し、特支学級担任や関係機関等との連携を図る。

⑥コミュニティ・スクールを土台にした「地域とともにある学校づくり」、並びに「信頼される学校づくり」を進める。

- ・地域行事への参加やボランティア活動の推進、地域人材の活用等により、地域とのつながりを深化させるとともに、生徒一人ひとりが社会の一員としての自覚と誇りを持てるようにする。
- ・情報発信やオープンスクール等により、家庭との連携を密にする。

3 教職員が協力・協働のもと、働きやすくやりがいを感じる環境づくり

※提言シートで「いきいきとした活力ある学校運営が図られている」と回答した教職員の割合を95%以上にする。(R7:92%・R6:93%)

※提言シートで「教職員の共通理解や意思疎通のもと、教育活動が行われている」と回答した教職員の割合を90%以上にする。(R7:82%・R6:93%)

※提言シートで「ゆとりある職場環境づくりが図られている」と回答した教職員の割合を70%以上にする。(R7:64%・R6:67%)

①「学校ルールブック」の活用などによる学校業務改善を進める。

- ・「学校ルールブック」を見直すとともに「学校危機管理マニュアル」を作成し「GPH200」を活用した取組を進め業務改善を図る。

②効率的な指導及び業務の遂行による勤務時間の縮減等を図る。

- ・前例踏襲にならないよう行事や授業の在り方の見直しを行い、勤務時間の適正化を図って生徒と向き合う時間や教職員の資質向上を図る時間を確保する。
- ・「丹波市業務改善計画」が基となりこれまで進められてきた業務改善については、完全実施の方向で進める。(No 3 day、会議時間の短縮、その他)
- ・スクールサポートスタッフに学習プリントの印刷や文書の仕分け等、積極的に依頼する。
- ・月80時間超の教職員をゼロにすることを最優先で目指しつつ、全ての教職員が月45時間以内となるようにする。

③ICTを活用することにより業務の効率化・簡素化を図る。

- ・職員会議及び職朝は共有ホルダーを活用する。
- ・業務改善を図る上でも、「デジらく採点システム」の活用を進める。

④職員会議、職朝、各種委員会、学年会議等の時間短縮を図る。

- ・職員会議のペーパーレス化と焦点化した提案等により、会議時間を1時間00分以内にする。
- ・職朝での依頼や報告は、可能な限り口頭で行わない。
- ・勤務時間終了後から始める会議は、原則（緊急時以外）行わない。